

NISISINA CASTLE SITE
西階城周辺遺跡(第1次)

HATTA SITE
八田遺跡第2地点

KASITANI SITE
樺谷遺跡

KAMIIKE SITE
上池遺跡

NOBEOKA CASTLE SITE
延岡城内遺跡E地点

平成5年度市内遺跡発掘調査事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1994. 3
延岡市教育委員会

平成 5 年度市内遺跡発掘調査事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書



序 文

延岡市は宮崎県の北部に位置し、県内でも最大を誇る工業都市であります。

近年は、東九州自動車道延岡線の整備計画を睨んで、民間開発、公共事業等の大規模開発事業が計画されつつあります。これらの開発事業に伴って貴重な埋蔵文化財が失われようとしています。

そこで、市教育委員会では開発事業等の計画に際して、埋蔵文化財の確認調査等を実施し、開発事業との調整資料を作成しているところであり、本書はその報告書であります。本書が埋蔵文化財への理解を深める一助になることを願うとともに、研究資料としてご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にあたり県文化課をはじめ多くの方々のご協力を得ました。記して感謝いたします。

平成6年3月31日

延岡市教育委員会

教育長 松坂数男

例　　言

1. 本書は、延岡市教育委員会が国庫補助を受けて、平成5年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 本年度は、西階城周辺遺跡（第1次）、八田遺跡第2地点、桜谷遺跡、上池遺跡、延岡城内遺跡E地点、延岡城二ノ丸（井戸跡）の発掘調査を実施した。
3. 本書に使用した遺物の実測、トレース、図面の作製については、山田聰、尾方農一、甲斐佳代、敷石サヨ子、高橋京子、山本敬子、壱岐広子、甲斐千恵美があたった。
4. 現場での写真撮影は山田、尾方があたり、遺物の写真撮影は山田があたった。
5. 陶磁器については佐賀県立九州陶磁文化館大橋康二氏にご教示いただいた。
6. 方位は磁北を向いている。
7. 出土した遺物は内藤記念館で保管しており、今後展示公開の予定である。
8. 本書の執筆は、各現場の調査担当者が行い、文責は文末に明記した。編集は尾方があたった。

本文目次

第Ⅰ章　はじめに	
1.　はじめに	1
2.　調査の組織	2
第Ⅱ章　調査の記録	
1.　西階城周辺遺跡（第1次）	3
(1)位置と環境	
(2)調査に至る経緯	
(3)調査の概要	
2.　八田遺跡第2地点	6
(1)位置と環境	
(2)調査に至る経緯	
(3)調査の概要	
3.　桜谷遺跡	11
(1)位置と環境	
(2)調査に至る経緯	
(3)調査の概要	
4.　上池遺跡	14
(1)位置と環境	
(2)調査に至る経緯	
(3)調査の概要	
5.　延岡城内遺跡E地点	21
(1)位置と環境	
(2)調査に至る経緯	
(3)調査の概要	

挿図目次

第1回	道路分布図	2
第2回	西階城周辺遺跡調査区配図	4
第3回	西階城周辺遺跡E地点周辺地形図	4
第4回	西階城周辺遺跡E地点出土遺物実測図	5
第5回	八田遺跡第2地点位置図	6
第6回	八田遺跡第2地点調査区配図	7
第7回	八田遺跡第2地点上層断面図	9, 10
第8回	桜谷遺跡位置図	11
第9回	桜谷遺跡溝区配図	12
第10回	桜谷遺跡桜平土層図	13
第11回	上池遺跡位置図	14
第12回	上池遺跡溝区配図	15
第13回	上池遺跡A地区配図	16
第14回	上池遺跡桜平土層図	18
第15回	上池遺跡A地区不明上屨実測図	18
第16回	上池遺跡A地区1号落し状構築実測図	19
第17回	上池遺跡A地区出土遺物	20
第18回	延岡城内遺跡E地点位置図	21
第19回	延岡城内遺跡E地点調査区配図	23
第20回	延岡城内遺跡E地点第6トレンチ土層断面図	24
第21回	延岡城内遺跡E地点出土遺物実測図	24

表目次

第1表	平成5年度市内遺跡発掘調査一覧表	1
圖版目次		
國版	1～6	西階城内遺跡（第1次）
國版	3	八田遺跡第2地点
國版	4	桜谷遺跡
國版	5～6	上池遺跡
國版	7～8	延岡城内遺跡E地点

第1章 はじめに

1. はじめに

延岡市は、宮崎県の北部に位置し、五ヶ瀬川の豊富な水力発電を基に発展する県下最大の工業都市である。しかし、近年は若者の流出が続いている人口がやや減少し、街の活気が低迷しているといわれている。

このため、延岡市では、都市基盤整備を充実させるために道路や公園整備等が進められている。また、農業経営等にも近代化の波が押し寄せ、中型機械導入による経営の効率化を目指した生産基盤の整備が進められている。さらに、地域拠点都市指定に向け開発構想が浮上しつつあり、それに関連して東九州縦貫自動車道西都～延岡間の整備計画路線への格上げ計画及び延岡外環状線の計画など大規模開発が進められようとしている。これらの諸開発事業によって、埋蔵文化財への影響が懸念されることから、開発事業と埋蔵文化財の保護との調整資料を得るために発掘調査を実施した。

本年度の市内遺跡発掘調査は下記の六カ所で実施した。なお、延岡城二ノ丸（井戸跡）については、年度末調査であったことから割愛させていただき次年度報告とする。

第1表 平成5年度市内遺跡発掘調査一覧表

地図番号	遺跡名	所在地(延岡市)	調査原因	調査面積	調査期間
1	西階城周辺遺跡(第1次)	西階町2丁目4780-1外	公園整備	200m ²	平成5年7月15日～昭和54年11月
2	八田遺跡第2地点	野田町5255-1外	宅地造成	50m ²	平成5年9月20日～21日
3	樅谷遺跡	上三輪町2508外	基盤整備	100m ²	平成5年9月27日～30日
4	上池遺跡	大野町1051外	基盤整備	800m ²	平成5年10月12日～20日
5	延岡城内遺跡E地点	東本小路120	街路事業	20m ²	平成6年1月6日～7日
6	延岡城二ノ丸(井戸跡)	本小路181	公園整備	25m ²	平成6年3月10日～17日



第1図 遺跡分布図

2. 調査の組織

調査主体 延岡市教育委員会

教育長 松坂数男

社会教育課長 大谷 建

文化係長 沖米田俊雄

庶務担当 吉永綏子

調査員 尾方農一、山田 聰

調査指導 谷口武範（県教育庁文化課）

調査作業員 安藤登美子、小椋ハルコ、工藤今朝子、工藤幸一、久保利男、後藤文子、酒井巖、酒井カノエ、酒井キミ子、酒井清子、酒井茂夫、酒井チヨ子、酒井テルコ、酒井初枝、酒井正志、酒井ミサ子、酒井義穂、坂本幸子、白石睦子、高橋ユリ子、平野サキ江、廣瀬富江、牧野昭徳

資料整理 壱岐広子、甲斐佳代、甲斐千恵美、敷石サヨ子、高橋京子、山本敬子
発掘調査において、延岡市都市計画課、同耕地課、日向総合開発株式会社の方々にご協力をいただいた。また、土地所有者の松田清六氏には調査の過程において便宜をはかっていただいた。記して感謝します。

第Ⅱ章 調査の記録

1、西階城周辺遺跡（第1次）

（1）位置と環境

西階城址は、延岡市西階町字置露、鶴ノ木に所在する。永享元年（1429）土持全宣により築城され、松尾城（松山町）に移るまでの約20年間の短期間の居城であり別名宝坂城ともいわれる。当時は、南の伊東氏、東の三田井氏との対立関係にあり、それぞれ川で遮られており自然の要害としても絶好の地点に立地していたことが窺える。江戸時代の内藤家文書にある絵図史料にも城址付近は曲輪状の平坦部や金堂ヶ池が描かれて「古城」と明記されており、廃城後も城跡の認識をもたれていたことが判る。

西階城址周辺は、昭和30年代後半から運動公園整備の一環で大規模に開発され、野球場、陸上競技場、テニスコートなどが整備されている。城址を取り囲むように道路が建設され、これらの事業に関連して、予定地内に所在する国指定南方古墳群第42号墳（横穴）の発掘調査が実施されている。現在、城址周辺は公園整備や宅地開発等で大幅に地形の改変がみられるものの、標高61.7mの主郭を中心とする曲輪群は良好に残存している。

（2）調査に至る経緯

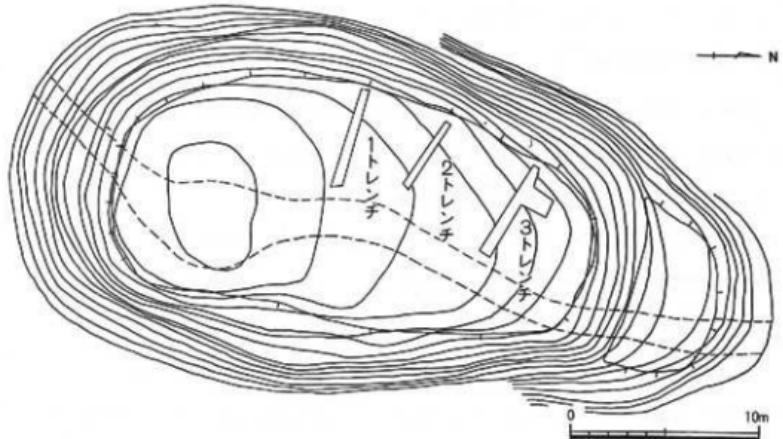
平成4年10月、市都市計画課から平成5年度西階公園整備事業の計画が示された。市教育委員会では、西階城址にかかる可能性が思慮されることから、埋蔵文化財についての協議を行った。その結果、公園整備についてはやむを得ないが、施工にあたっては現状を極力変更しない工法で進めることとし、埋蔵文化財の可能性がある地点は事前に確認調査を実施することで合意した。確認調査は平成5年7月15日～同年8月11日までの13日間にわたって実施した。

（3）調査の概要

今回の公園整備計画では園路、東屋整備が主体で尾根筋の整備が予定されることから、ピーク地点となっているA～Fの6カ所の調査地点を設定した。A地点は、大瀬川を見下ろす高台に立地し、城址主郭から真南に約400mの地点にあたる。標高は50.7mあり、川



第2図 西階城周辺遺跡調査区配置図



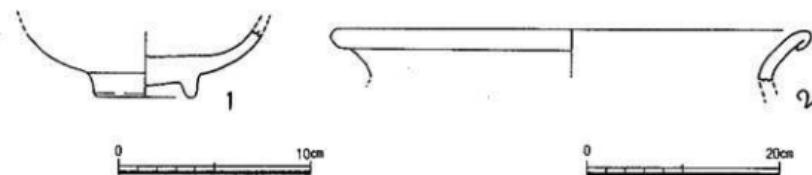
第3図 西階城周辺遺跡E地点 周辺地形図

との比高差は43.8mを測り、南側を監視する地点としては絶好のポイントであることから物見台等の遺構が予想された。調査の結果、表土は10cm程度で直下から岩盤が露出し、柱穴等の期待された遺構は全くみられなかった。B・C・D地点は、A地点から北東に延びる尾根のピークに位置するが、こちらも全く反応はなかった。F地点は曲輪群から下った尾根筋にあたるが、公園整備による造成が認められ全く反応はなかった。E地点は城址曲輪群の裾から延びる最初のピーク点で、主郭から南南西に約180mにあたる。

表面観察では、約300m²の平坦面が見受けられ、更に城址側の斜面にも小規模な平坦面がみられ曲輪状を呈していた。そこで確認のためのトレンチを3ヶ所設定した。調査の結果、各トレンチの西側斜面は平坦面造成に伴うとみられる盛土層が確認され、3トレンチの盛土層から遺物が出土した。1は青磁碗である。高台内面まで施釉されている。2は備前焼の水壺である。口縁部のみであるが、形状などから13世紀前半の所産とみられる。

今回の調査では、遺物や遺構は殆ど確認されなかったが、城址曲輪が従来よりも南側に延びる可能性ができたことは大きな発見であり、出土遺物の年代との相違があるため検討をするものの周辺地域にも曲輪群の存在が推定される結果となった。今後の繩張り調査が期待されよう。

(山田)



第4図 西階城周辺遺跡E地点出土遺物実測図

2. 八田遺跡第2地点

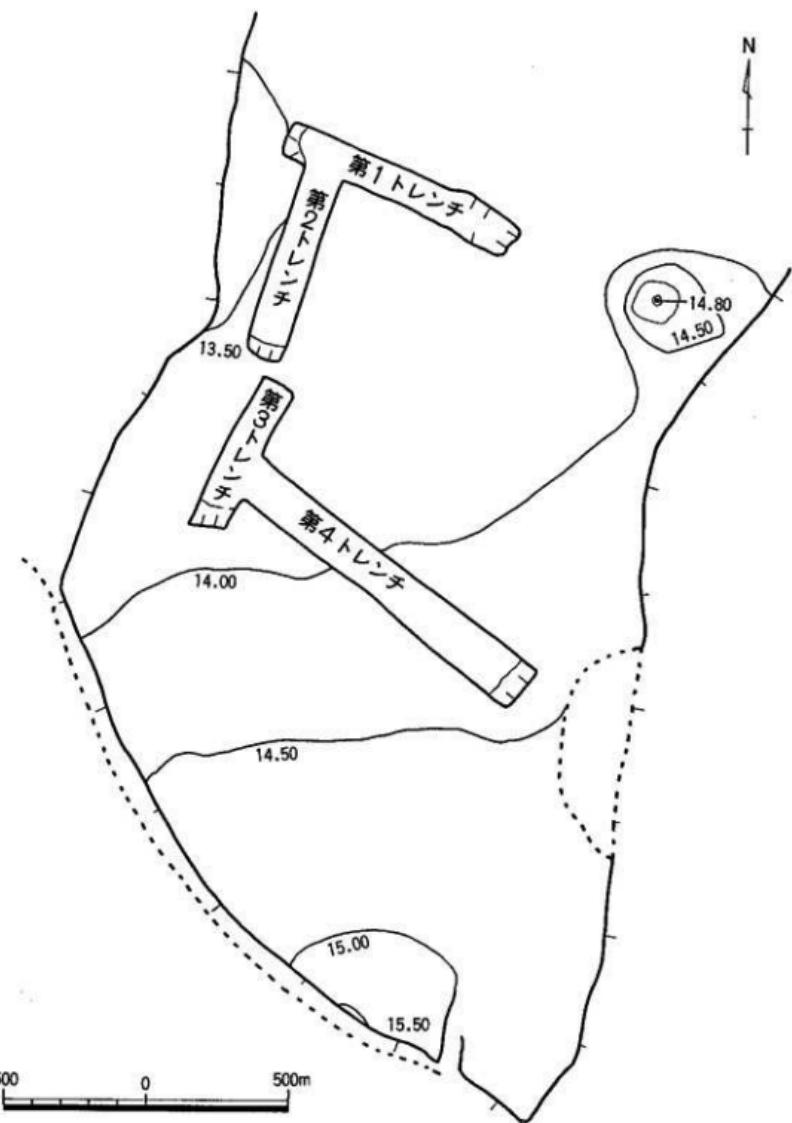
(1) 位置と環境

八田遺跡第2地点は、延岡市野田町5255-1外に所在する。本遺跡の南西約170mには南方古墳群38号墳と野田町八田遺跡が存在する。また、北東約200mには南方古墳群37号墳が存在する。

野田町は、五ヶ瀬川が大瀬川と分流し、1km程流れ下り大きく蛇行する左岸の平野部と北東に延びる低丘陵地帯に広がる。付近には国指定南方古墳群の野田・野地支群が分布し、古くから周知の埋蔵文化財包蔵地として知られている。37号墳は、墳丘が既に失われており、長さ2.7mに及ぶ県内最大の削抜式家形石棺が露出している。遺物については不明である。38号墳は未調査の古墳で、現存径約16m、高さ2mの小円墳である。また、38号墳の存在する丘陵北東端は、野田町八田遺跡にあたり、1977年に調査され、弥生時代後半期の不整形の竪穴住居跡一軒が発見されている。主な出土遺物は、櫛描波状文を有する二重口縁土器、石包丁4、石鎌3、石錘4、石斧5などである。



第5図 八田遺跡第2地点位置図



第6図 八田遺跡第2地点調査区配置図

(2) 調査に至る経緯

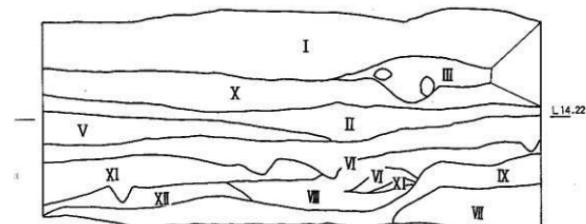
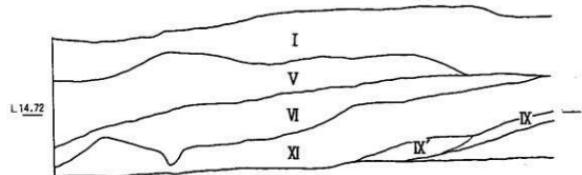
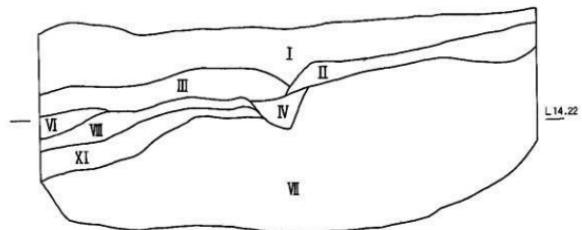
平成5年9月、日向総合株式会社から「延岡市野田町5245番地外12筆における、文化財の所在の有無について」照会を受けた。市教育委員会では、予定地一帯が「周知の埋蔵文化財包蔵地」であることから、着手前に確認調査を行うこととなった。確認調査については、平成5年9月20日～21日まで実施した。

(3) 調査の概要

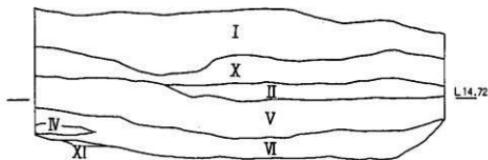
調査は、トレンチ調査法による確認方法を採用した。調査区北端の東西方向に1ヶ所(第1トレンチ)、調査区中央の東西方向に1ヶ所(第4トレンチ)、調査区西端の南北方向に2ヶ所(第2、第3トレンチ)の合計4ヶ所で調査を実施した。調査区は竹藪であったため、現地表から約50cmは竹の根により搅乱を受けていた(第I層)。第1トレンチでは遺物、遺構等は発見できなかったが、地山である黄褐色粘土(第Ⅳ層)の西側への傾斜がみられる。また、調査区の東端は既に削られており、遺構等の検出は難しいと考えられる。第2・第3・第4トレンチからは、表土から約70～100cmのところに二層に分かれた遺物包含層(第V層暗茶褐色土、第VI層淡黒褐色土)が確認できた。包含層は東から西に向かって傾斜しており、遺物は土師器片が出土している。第3トレンチからは、高杯の脚部が出土している。

今回の調査で、遺物包含層が確認された。そのため、日向総合株式会社と協議を行い、本調査を平成5年10月に行うこととなった。

(尾 方)



- I 淡茶褐色土
- II 茶褐色粘質土
- III やや黄味を帯びた淡茶褐色土
- IV 暗黄褐色土
- V 暗茶褐色土
- VI 淡黒褐色土
- VII 黄褐色土
- VIII 暗橙色土
- IX 暗茶褐色粘土
- X 淡黄褐色土
- XI 明橙色土
- XII 黑褐色粘質土

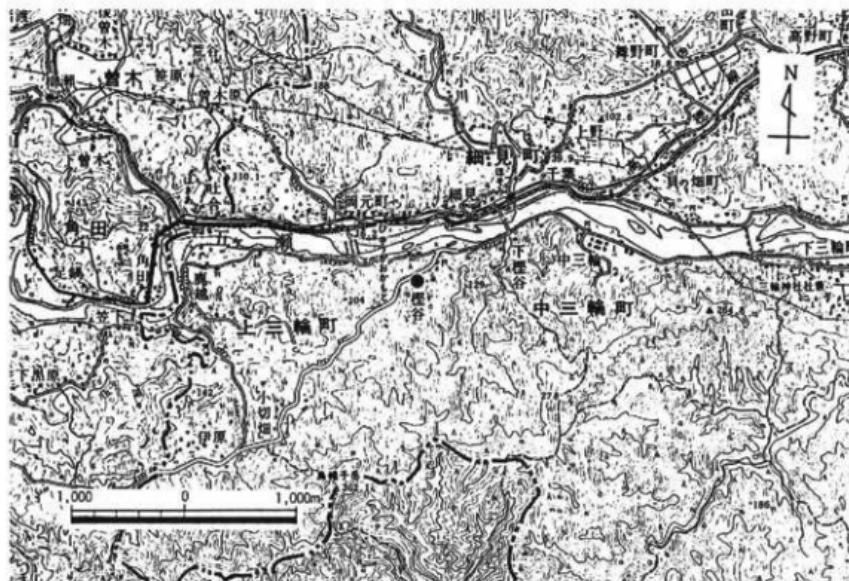


3. 横谷遺跡

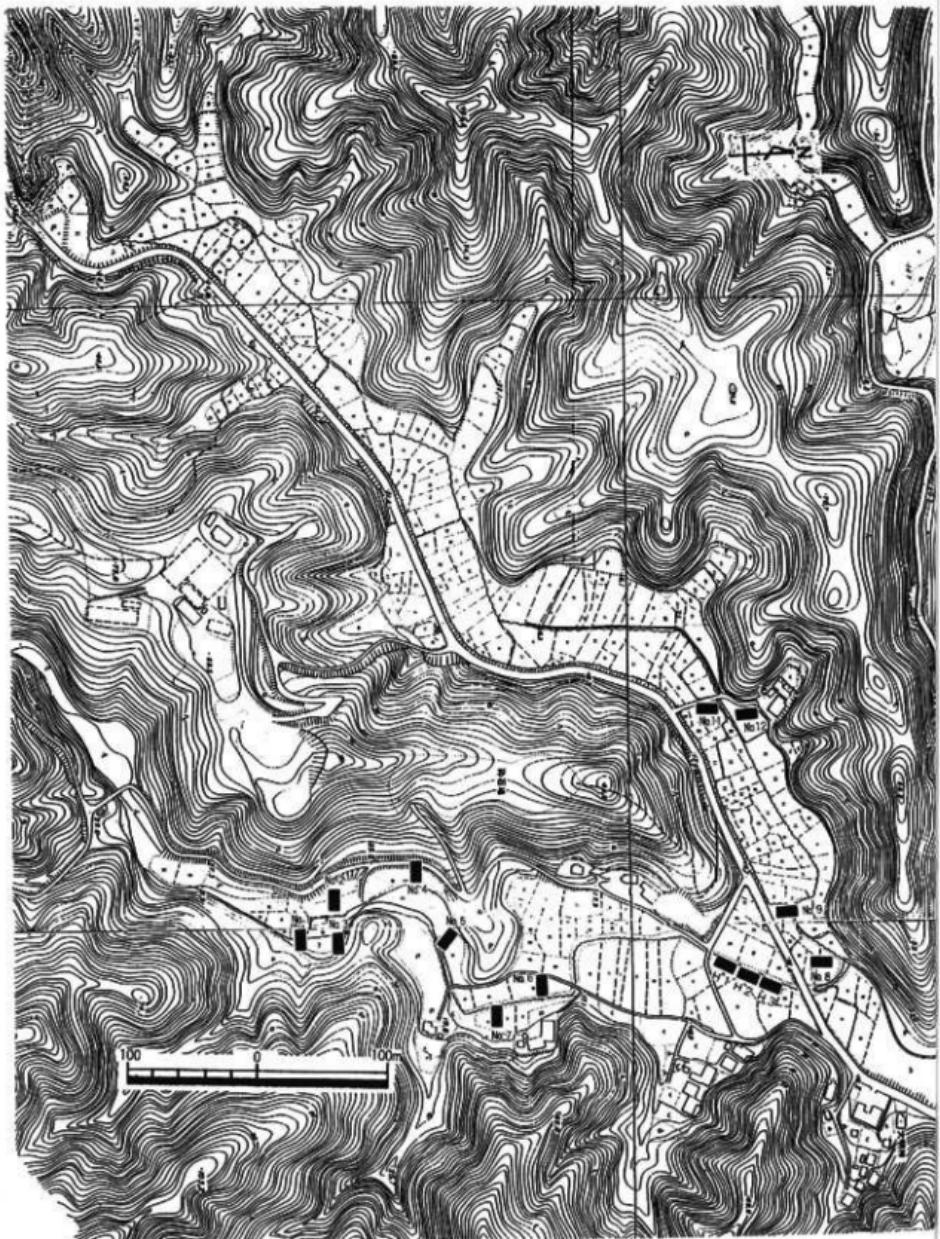
(1) 位置と環境

横谷遺跡は、延岡市上三輪町2578外に所在する。

上三輪町は五ヶ瀬川の分流点より、約5km上流の右岸に位置する。一帯は、川に向かって派生してきた丘陵が急激に落ち込み、平坦部はわずかしかみられない。横谷遺跡は、丘陵地帯の南に入り込む深く広い谷に所在する。また、五ヶ瀬川を挟んだ対岸の細見町周辺には、中尾原遺跡、畠山遺跡、山口遺跡等の上南方地区遺跡群が所在する。上南方地区とその下流域を含む南方地区は『遺跡の宝庫』といわれる程、数多くの遺跡等が確認されている。中尾原遺跡は、弥生時代後期後半～古墳時代後期にかけての集落跡で、竪穴住居跡62軒が検出されている。畠山遺跡は先土器時代～中世にかけての遺跡で、ナイフ形石器をはじめ、縄文時代早期の集石遺構、後期の住居跡1軒、弥生後期後半～古墳時代初頭の住居跡5軒、中世のものと思われる十数棟の掘立柱建物跡等の遺構、遺物が発見されている。山口遺跡では、掘立柱建物跡3棟等の平安時代～中世にかけての遺構・遺物等が発見されている。



第8図 横谷遺跡位置図



第9図 梨谷遺跡調査区配置図

(2) 調査に至る経緯

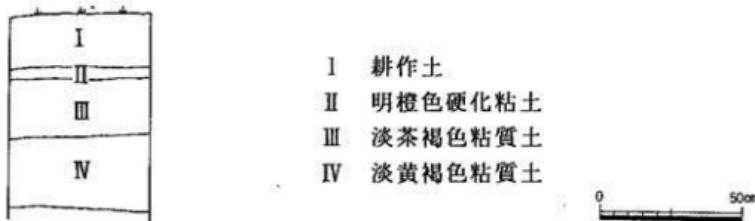
市教育委員会は毎年、市の開発関連部局に対して「次年度の開発事業等の実施予定地について（照会）」を行っている。今回の調査は耕地課の回答により、当地において、ほ場整備事業が計画されていた。当地は水田址の可能性が考えられ、協議の結果、教育委員会による確認調査を行うこととなった。調査は平成5年9月27日～30日にかけて行った。

(3) 調査の概要

水田址の検出を主眼に置き、トレンチ調査法による確認方法を採用し、調査区の14ヵ所において調査を実施した。調査区は二本の谷からなり、南に延びる谷をⅠ区、南西に延びる谷をⅡ区とした。Ⅰ区は第1～7トレンチの7ヵ所と工事のため掘られた排水溝の断面観察を3ヵ所で行った。Ⅱ区は第8～11トレンチの4ヵ所で行った。Ⅱ区は河川に近く低地であるため、水がかなりの量で湧いている。特に第11トレンチより南西は、水量が多く調査を行うのは困難であった。着工時に排水を行うとのことだったので、今後の工事の進捗とともに進めることになり、今回は調査を行わなかった。付近の基本層序は次のとおりである。Ⅰ層耕作土、Ⅱ層明橙色硬化粘土（下部には赤銅色の鉄分が沈殿し硬化している）、Ⅲ層淡茶褐色粘質土、Ⅳ層淡黄褐色粘質土。Ⅰ区の土層は比較的に安定している。しかし、標高の低いトレンチのⅣ層より下層は、礫層や砂利層が殆どであった。また、標高の高いトレンチでは、地山の暗黄褐色粘土や暗茶褐色粘土であった。Ⅱ区の層は休耕前の水田層も安定しておらず、河川も近い事から氾濫等の影響をかなり受けているようだった。

今回の調査においては、水田址は検出されなかった。また、他の遺構も検出されず、遺物も出土していない。

(尾 方)



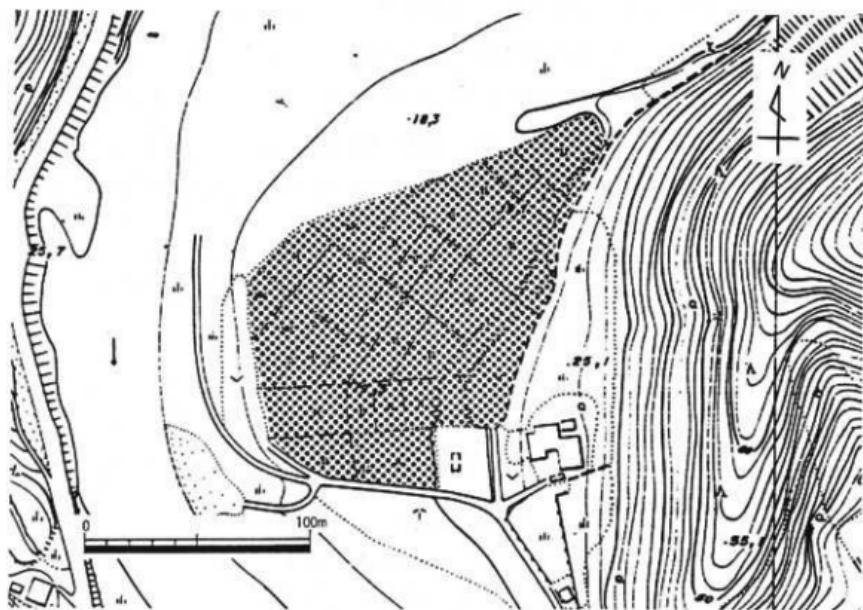
第10図 横谷遺跡標準土層図

4. 上池遺跡

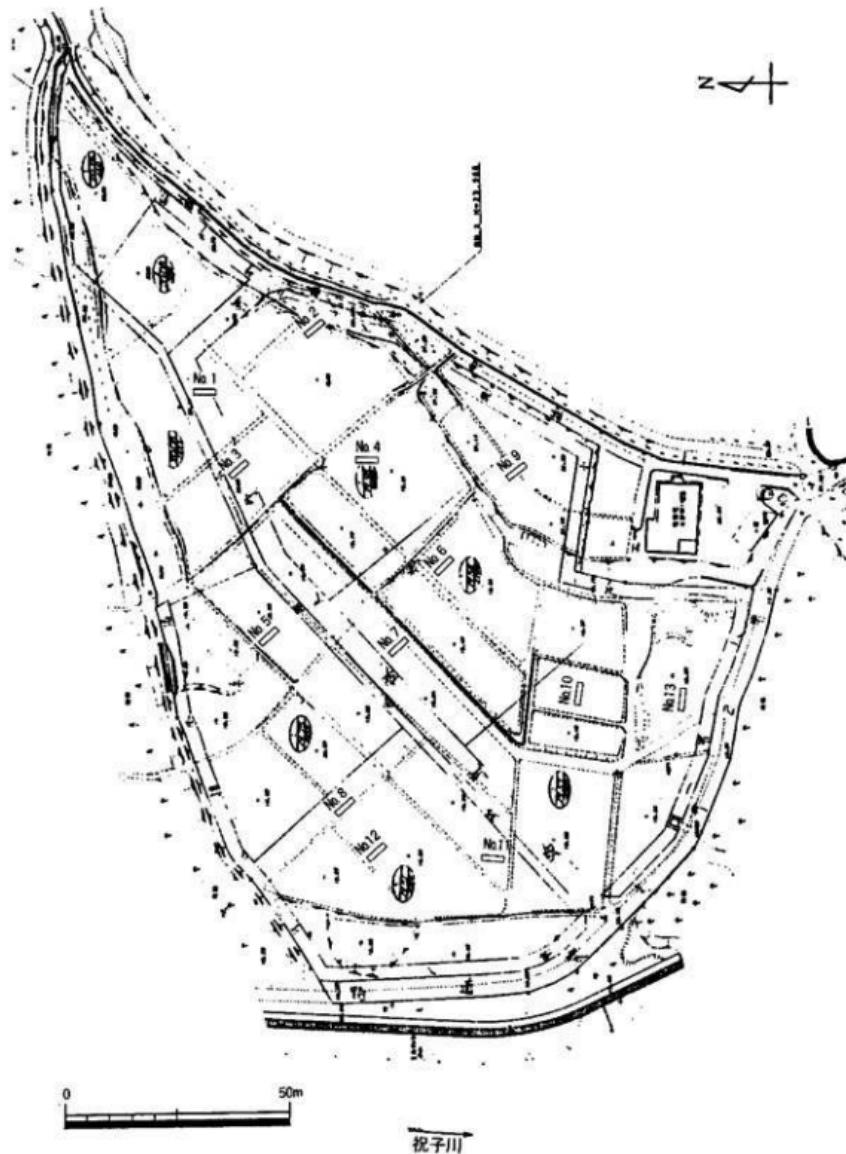
(1) 位置と環境

上池遺跡は、延岡市大野町1051外に所在する。本遺跡は、祝子川が大きく蛇行する東岸の丘陵裾部に立地する。本遺跡の北約700mには土持神社が、また南東約3.7kmのところに祝子遺跡が所在する。

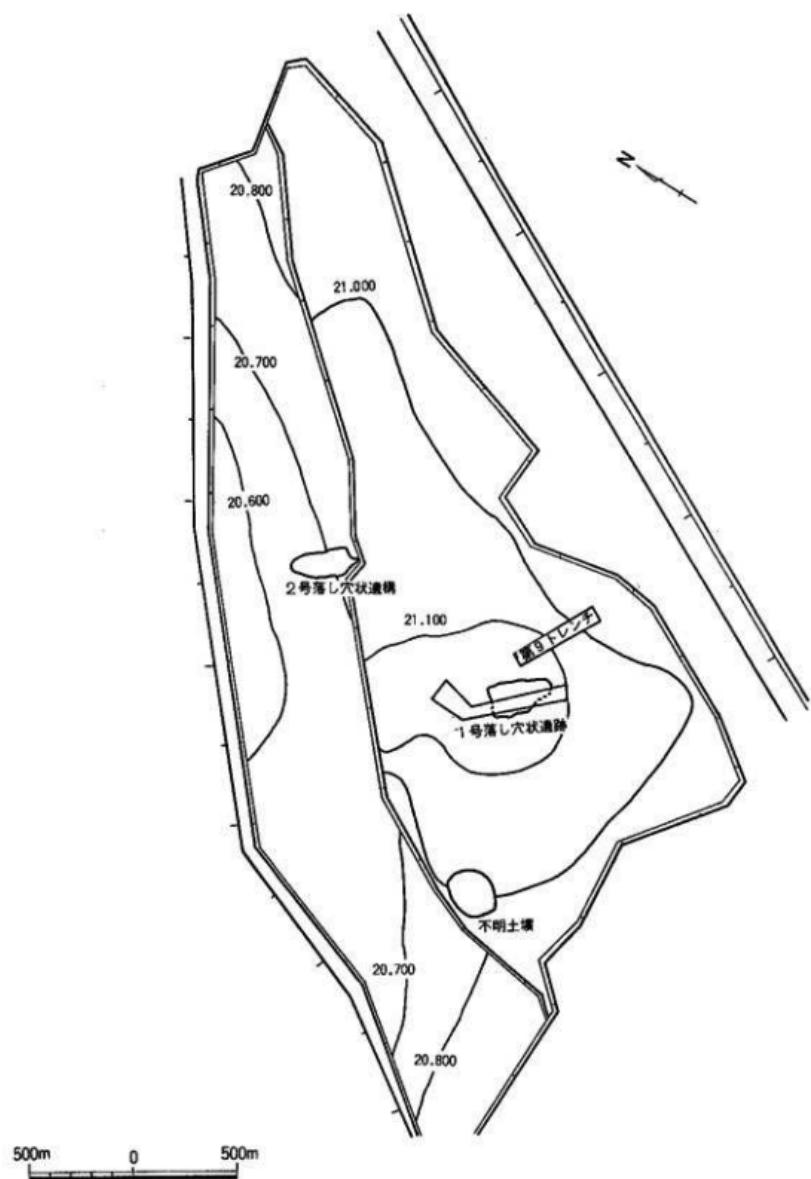
大野町は、祝子川が大きく蛇行する地点の東岸丘陵地帯と西岸の低地に広がる。祝子川は延岡市の北から流れ下り、高平山（標高406.6m）にぶつかり、そこから大きく東へ流れを変え日向灘に流れ込む。大野町の北隣の妙町には、土持高信が自刃したといわれる土持神社が建っている。土持氏は、平安時代に宇佐神宮の神領であった県（あがた・旧延岡地方）に荘司として移り住み、南北朝時代に武士団として成長した。井上城、西階城、松尾城と居城を移り周囲の各豪族に対抗した。1578年豊後の大友宗麟に滅ぼされるまでの約650年間、県を支配していた。祝子遺跡は、1942年石川恒太郎氏により発見されている。石斧等の石器、土器片、鐵滓が出土している。



第11図 上池遺跡位置図



第12図 上池遺跡調査区配置図



第13図 上池遺跡 A 地区配置図

(2) 調査の経緯

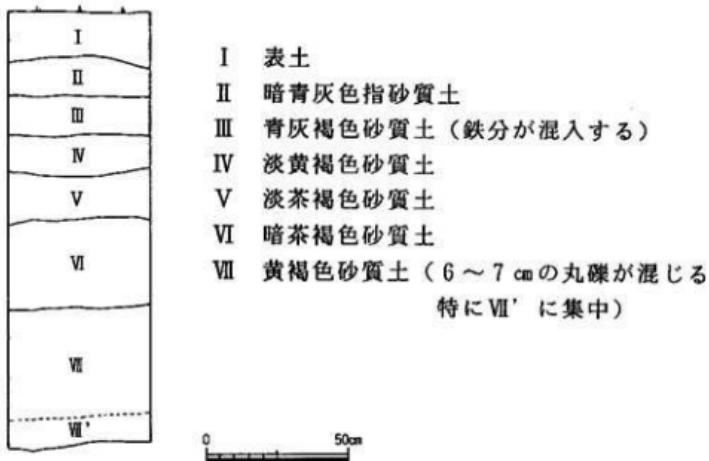
市教育委員会は毎年、市の開発関連部局に対して「次年度の開発事業等の実施予定地について（照会）」を行っている。今回の調査は耕地課の回答により、当地における、ほ場整備事業が計画されていることが明らかになった。当地は表探により遺物が発見されており、埋蔵文化財包藏地の可能性があり、事業着手前に確認調査を行うこととなった。調査は平成5年10月12日～20日にかけて行った。

(3) 調査の概要

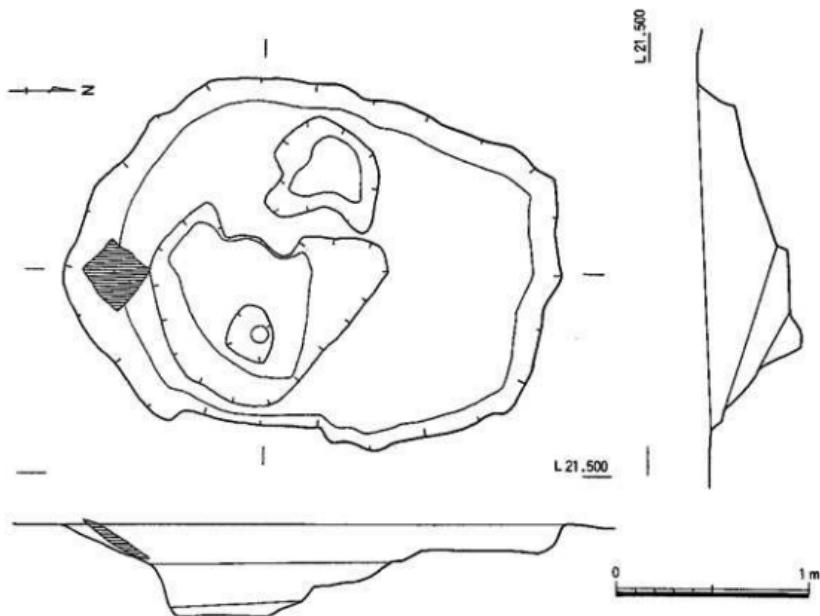
調査は、トレンチ調査法による確認方法を採用し、調査区の13ヵ所において実施した。周辺の基本層序は次のとおりである。I層表土、II層暗青灰色砂質土、III層青灰褐色砂質土（鉄分が混入する）、IV層淡黄灰褐色砂質土、V層淡茶褐色砂質土、VI層淡黒灰褐色砂質土、VII層黄褐色砂質土（6～10cm大の丸礫が混じる）。第3・5・7・8・10・11・12トレンチ等の川に近いトレンチでは、VI層の下部より丸礫層（大きなもので30～40cm大）があり、旧河道だったことが窺える。また、氾濫等の影響をかなり受けていると思われ、遺物・遺構等は発見されなかった。しかし、調査区南西の畑（A地区）は2m程の比高差があり、第9トレンチよりアカホヤが検出された。そこで、A地区の表土を重機によって剥ぎ取ると、アカホヤが一面に検出でき旧地形が残存している事が確認できた。

A地区の調査により検出された遺構は、落とし穴状遺構2基、不明土壙1基である。落とし穴状遺構の平面形は梢円形をなす。1号落とし穴状遺構は、長軸（南東一北西）約310cm、短軸約185cm、深さは最深部で約110cmを計る。2号落とし穴状遺構は、長軸（南東一北西）約340cm、短軸約120cm、深さ約75cmを計る。1号落とし穴状遺構から遺物は出土していない。2号落とし穴状遺構上部の埋土からは、刻目突帯文土器口縁部小片等が出土している。不明土壙は南北約260cm、東西約80cmの梢円状をなし、深さが約50cmである。沈線文土器片、石錘、姫島産黒耀石の石器未製品と思われる石器2点及び剥片が出土している。この土壙の南側から一辺約30cmの綠泥片岩が出土している。

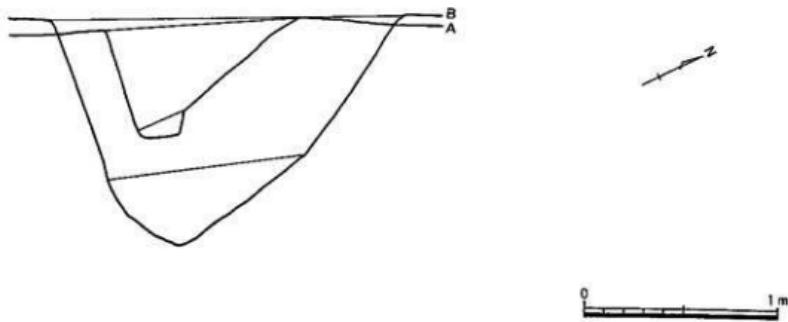
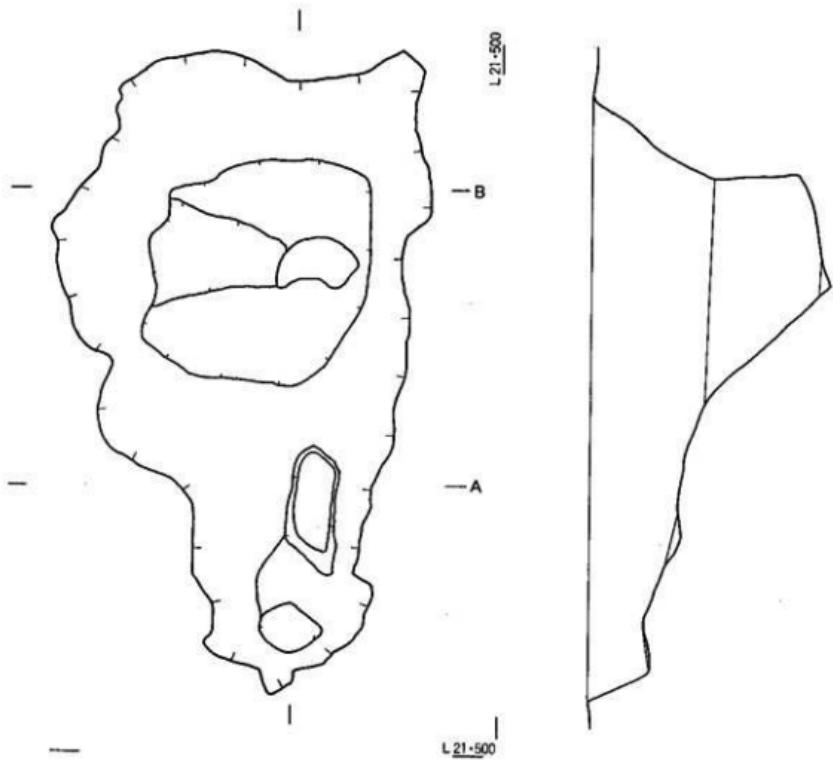
（尾 方）



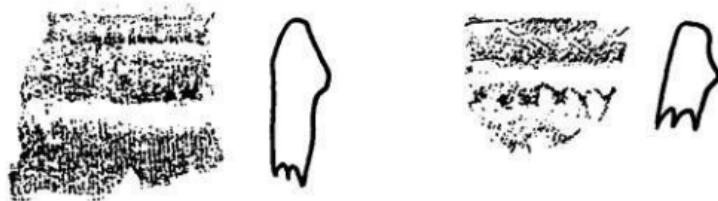
第14図 上池遺跡標準土層図



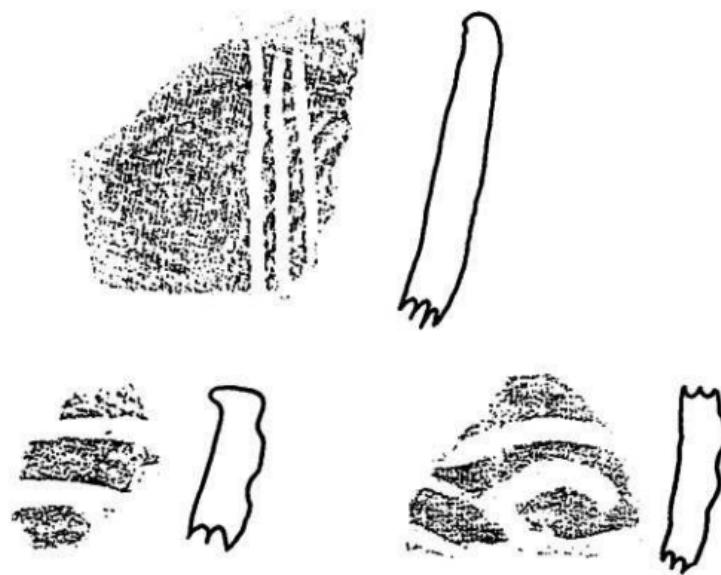
第15図 上池遺跡A地区不明土壤実測図



第16図 上池遺跡A地区 1号落し穴状構造実測図



1号落し穴状遺構出土遺物



不明土壙出土遺物



第17図 土池遺跡A地区出土遺物実測図

5. 延岡城内遺跡E地点

(1) 位置と環境

延岡城内遺跡E地点は、延岡市東本小路115に所在する。

延岡城は、1587年に入封した高橋元種が1601～1603年にかけて築城したとされる。当時は県城と呼ばれ、その後の藩主有馬氏の時代に延岡城と改められたとされる。城郭は城山（標高53.4m）を中心に天守台、本丸、二ノ丸、三ノ丸が築かれ、さらに西側約300mには、歴代藩主の居館（有馬氏以降とされる）である西ノ丸がある。中でも、本丸と二ノ丸の間には高さ約22mの通称「千人殺し」と呼ばれる堅固な石垣を中心各曲輪に石垣が築かれており、宮崎県内にみられる城郭の中でも代表的な近世城郭といえる。

今回の調査地点付近は、延岡藩士族屋敷図（1868年前後）等の絵図資料によると、家中の屋敷が広がっている。また、調査地点南東の現在の警察署付近には「京口門」とされる門が見受けられ、城内への重要なポイントであったことが窺える。



第18図 延岡城内遺跡E地点位置図

(2) 調査に至る経緯

市教育委員会は毎年、市の開発部局に対して「次年度の開発事業等の実施予定地について（照会）」を行っている。今回の調査は都市計画課の回答により、当地周辺において街路事業（亀井通線）が計画されていることが明らかになった。調査地点は、事業の一環としてポケットスペースが計画されており、当地が延岡城址の城内にあたることから、確認調査を行うこととなった。調査は平成6年1月6日～7日にかけて行った。

(3) 調査の概要

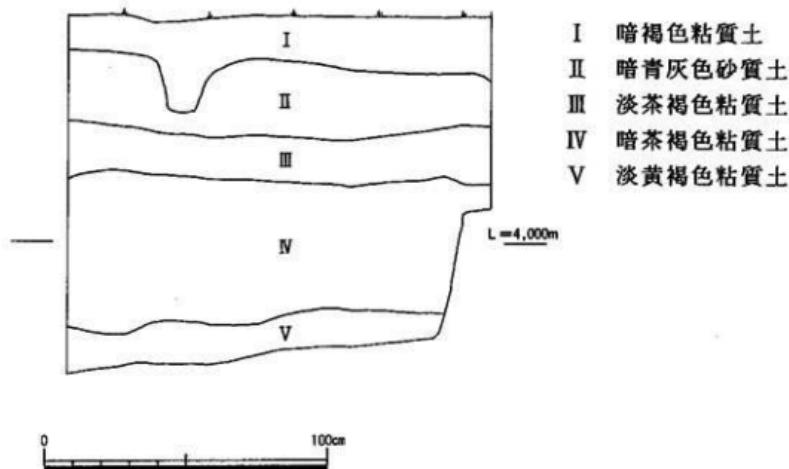
調査は、トレンチ調査法による確認方法を採用した。調査区の10ヶ所において調査を実施した。付近の基本層序は次のとおりである。I層暗褐色粘質土、II層暗青灰褐色砂質土、III層淡茶褐色粘質土、IV層暗茶褐色粘質土、V層淡黄褐色粘質土。遺物は、主に陶磁器類の小片で各トレンチから約30点出土している。陶磁器類は主に17～19世紀のもので、関西系、肥前系、輸入陶磁等である。1は中国の景德鎮窯「明山手」スタイルの染付で、製作年代は1590～1630年代と推測される。2は中国の徳化窯の口禿の白磁で、製作年代は19世紀代と推測される。3は肥前陶磁の端反り碗の蓋で、製作年代は1820～1840年代と推測される。

今回の調査では遺構は確認できなかったが、上質の陶磁器が出土している。I層の暗褐色粘質土は4～5cm大の丸礫・角礫が混入しており、擾乱を受けている層と思われる。今回の調査地点では、I層が20～40cm程あるために遺構の残存が確認できなかったと思われる。今後の周辺の調査に期待したい。

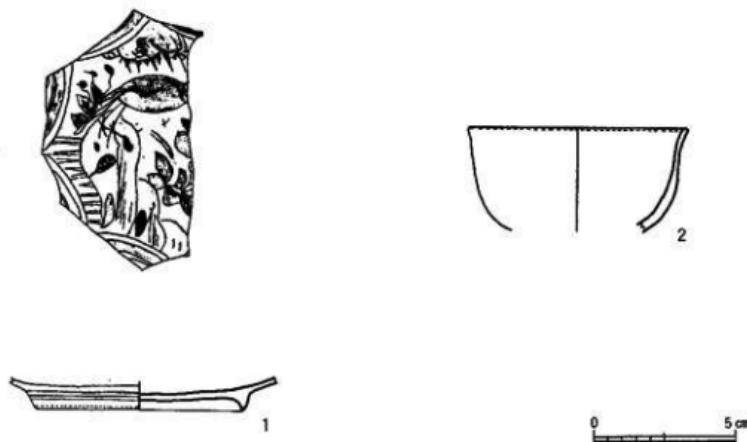
(尾 方)



第19図 延岡城内遺跡E地点調査区配置図



第20図 延岡城内遺跡E地点標準土層図



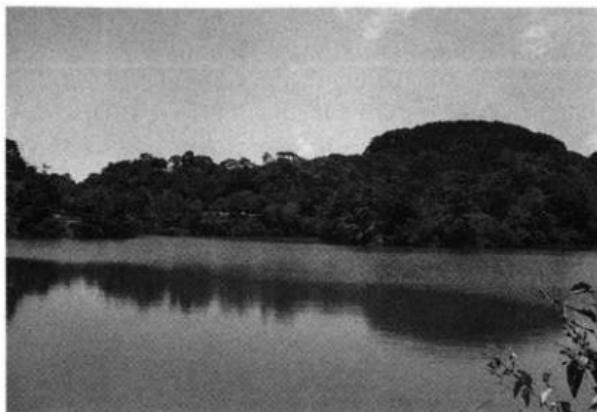
第21図 延岡城内遺跡E地点出土遺物

西階周辺遺跡（第1次）

西階城址

(遠景)

手前は金堂ヶ池



A地点

(調査後)

西方から



E地点

第2トレンチ

(調査後)

上部は曲輪状の

平坦面



図版1

西階城周辺遺跡（第1次）

E 地点

第3 レンチ

(遺物出土状況)

矢印付近



E 地点

第3 レンチ

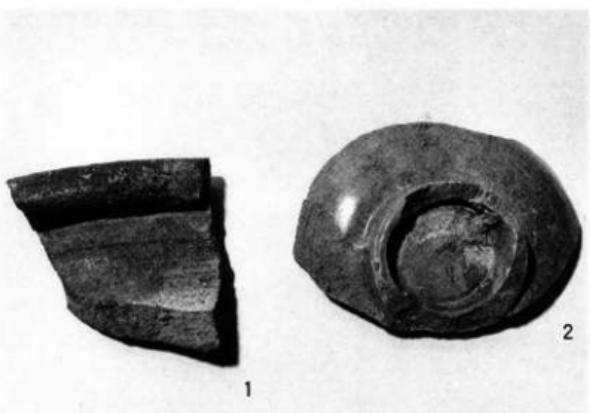
(遺物出土状況)

表土直下から出
ました。



出土遺物

(E 地点)



図版 2

八田遺跡第2地点

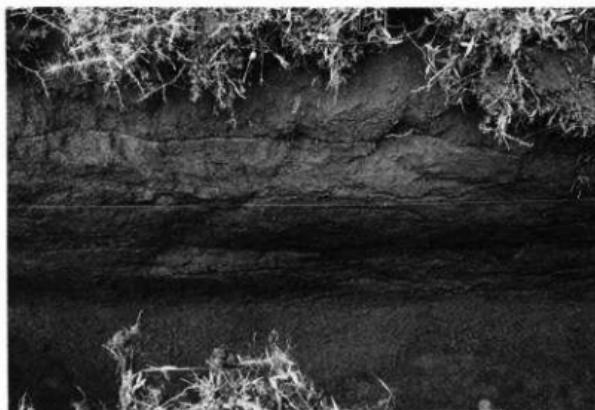
八田遺跡第2地点

東方から



第2トレンチ

土層断面



出土遺物



櫻谷遺跡

櫻谷遺跡 I 区

(北方から)



櫻谷遺跡 II 区

(南西から)



I 区

第1トレンチ



図版 4

上池遺跡

上池遺跡

北方から



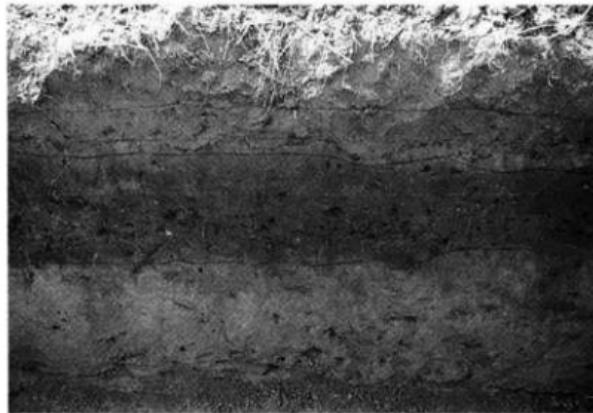
A地区

調査後



第6トレンチ

土層断面



上池遺跡

2号落し穴状遺構

(A地区)



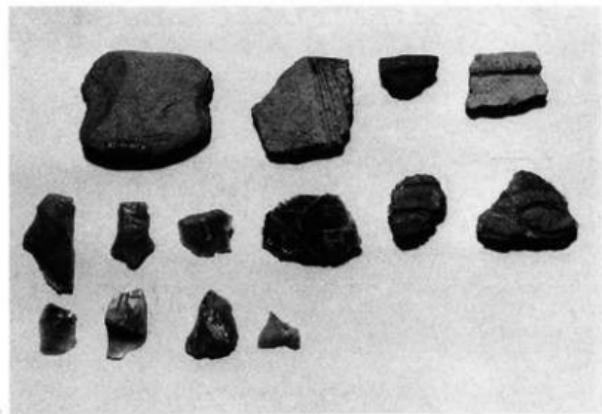
不明土壤

(A地区)



出土遺物

(A地区)



図版 6

延岡城内遺跡 E 地点

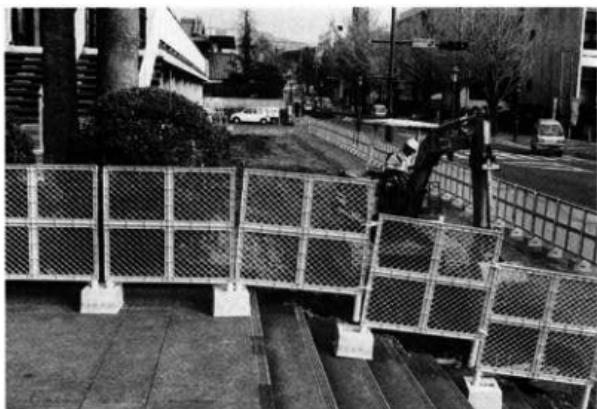
調査前

(盛土がしてある)



調査前

(盛土除去後)



調査風景



延岡城内遺跡 E 地点

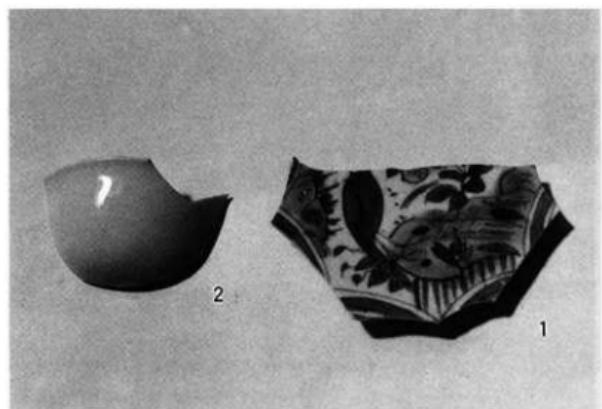
第10トレーナー

土層断面



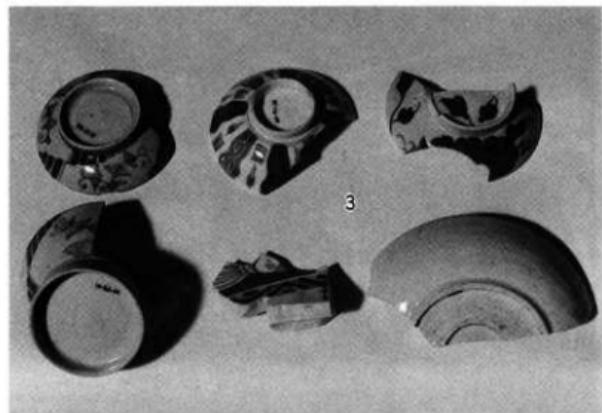
出土遺物

(輸入陶磁)



出土遺物

図版 8



図版 8

平成5年度 市内遺跡発掘調査事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1994年3月

発 行 延岡市教育委員会

延岡市東本小路2-1

印 刷 明巧堂印刷株式会社